

るのも気が引ける思いであるとのことです。

また、小笠原諸島は戦争遺構が多く存在し、砲弾洞窟や塹壕が至る所にあるようです。地上戦はなかったようですが、爆撃による穴もあるとのこと。この日の昼食は河川公園でお弁当をいただきました。この川は、父島唯一の八ツ瀬川と言うことで、島の水源である時雨ダムからの水が流れるとのこと。食後にこの時雨ダムに行きましたが、確かに無数の谷が集まる場所にあり、川の名前もそこから来ているようでした。ダムには所々泡が吹いていた。ダムには所々泡が吹いていた。今年は干ばつだったので、このダムの水位が20%程度まで下がり、一時心配であったとのことでした。

その後森林生態系保護地域で実施している「東平サンクチュアリ」に行きました。外周をフェンスで囲い、特にアカガシラカラスバトを保護するために、野ネコを入れないようにしたり、トラップを仕掛けたり、また、靴の洗浄の徹底や外来樹の伐採などを実施しているエリアです。この管理は、森林生態系保全センターの役割で、所長さんが熱心に説明をして下さいました。

帰り道の最後は長崎展望所に寄り、皆さんで記念撮影を行いました。ここは北東側で、左前方には兄島が見えて、兄島と父島の間は「兄島瀬戸」という非常にきれいな景観の場所でした。

夕方4時頃に一旦宿舎に帰つたのですが、深谷課長が私がそんなに疲れていないと見るや、屋久島町長夫妻を降ろして、

もう1か所案内してくれました。そこは、宿泊先である「のあ」のベランダから見える「三日月山」と言うところで、展望台が2か所あり、1か所は西側海が一望できる所と、少し上に登つて、町側が一望できる場所でありました。夕方の時間帯でありましたが、日没時はもっと観覧者が多く来るとのことでした。

シャワーを浴びて着替えてから夕食です。今日1日案内していただいた各団体の職員の方々との懇談です。「ラドフォード」というお店で、ウミガメの刺身と煮込み、島寿司(ネタが白身魚のズケで、ワサビでなく、カラシがついている)が印象的でした。



三日月山展望台から景色を一望

◇7月1日（土）
母島に移動の日なので、7時に港に行きました。ははじま丸は昨年7月1日に、おがさわら丸と一緒に就航した船で、丸1年が経過した記念すべき日の乗船です。ここでも、地元の方がびっくりする位のベタ風ぎで、今のところ本当に恵まれたといない気がして、所要2時間のうち7

割位をデッキにいました。
予定通り9時半に母島に到着です。しかししながら、上陸の沖港は母島の南側に位置していて、外海との間にはテトラポットが防波堤となっています。そのほか、向島、姉島、姪島、妹島は母島の南に位置しています。



「乳房山」山頂にて

荷物を宿舎「南風」に置き、着替えてから町中散策。昼食は港の東屋でお弁当をいただき、観光協会に入山届を出して、いよいよ母島最高峰の「乳房山」登山に向かいます。屋久島町長夫妻は島内めぐりとのことで、登山には深谷課長（小笠原村環境課長 深谷典之氏）と、屋久島の内田係長（屋久島町環境政策課自然環境係長 内田大信氏）と私の3人で挑戦です。片道2時間の行程とのことで、取り敢えず3人の内の長老の私が先頭を行きます。登り始めから急登が続き、当町の小岳の旧道に似ている感じを受けましたが、何の不安もなく、1時間15分で登頂することができました。早速山頂での写真撮影と、登頂を証明するため、山頂表示を乾拓し、早々に下山を開始しまし

た。復路の先頭を内田係長に譲ったところ、走らない程度の速さで降りるので、下山道は往路より長かったものの、1時間20分で下山することができました。体中の水分が体外に抜けた感じでした。

◇7月2日（日）
宿舎の朝食にパッショントルーツが出され、大変おいしくいただきました。宿を午前9時に出発し、母島の北港へ。道中には動物注意の道路標識にちなみ、アカガシラカラスバトやハハジメメグロ、ヤドカリなどの標識が出てきます。昔小学校だった場所は、巨大なガジュマルの木が生い茂りかろうじて入口の校門と標識しか往時を忍ぶものはありません。

また、港に戻り今度は南の方へ移動。都道の最南端で終点です。ここからは歩道しかなく、時間的に断念せざるを得ない状況です。この場所には当町と同じく「小林製薬」寄贈のバイオマストイレがあり、何となく親近感を感じたところであります。

少し上部の展望台に移動し、南側を一望してみましたが、緊急用ヘリポートが美しい自然景観との違和感を少し感じた次第であります。しかしながら、島の人たちにとつては命をつなぐヘリポートであり、無くてはならないものであると思います。

港に帰ると乗船の時間です。港では、ペットボトルの水でウミガメとハハジメグロを描き、「また来て。」とのパフォーマンスを見せていただいた上に、桟橋を最後まで見送りに走つて来て、最後は海